

預かり保育に関する母親の意識調査

○ 渡邊 絢

田川悦子

(学校法人初音丘学園ピッコリーノ) (鎌倉女子大学)

【はじめに】

文部科学省学校基本調査(平成 13 年 5 月 11 日現在)によると、全国で 80% 近くの私立幼稚園が預かり保育を実施しており、子育てをしている母親からの関心も高いと思われる。そこで、預かり保育が子どもに与える影響や、預かり保育が子育て支援に果たす役割を明らかにしたいと考え調査を行ったので報告する。

【方法】

調査方法：質問紙法

調査期間：2001 年 11 月～12 月

調査対象：神奈川県横浜市で預かり保育を実施している私立幼稚園 3 園に在籍する園児の母親 642 名と、神奈川県川崎市で預かり保育を実施していない私立幼稚園 1 園に在籍する園児の母親 265 名を対象に質問紙を依頼し回収した。その結果、預かり実施園は 449 名(回収率 69.9%)、実施していない園は 160 名(60.3%)の母親から有効回答を得たので集計検討した。対象園の内訳は次の通りである。

①預かり保育実施園(横浜市内)

保土ヶ谷区 S 幼稚園(商業地域・再開発が進んでおり、マンションに住む家庭が多い)に 182 枚依頼し、137 枚(回収率 75.3%)を回収した。

都筑区 I 幼稚園(横浜のニュータウンとして注目を集めている地域)に 210 枚依頼し、141 枚(回収率 67.1%)を回収した。

瀬谷区 Y 幼稚園(横浜の郊外にあり、1 戸建てが多い住宅地域)に 250 枚依頼し、171 枚(回収率 68.4%)を回収した。

②預かり保育を実施していない園(川崎市内)

麻生区 H 幼稚園(川崎の郊外にあり住宅地域)に 265 枚依頼し、160 枚(60.3%)を回収した。

【結果および考察】

預かり保育を実施している園と実施していない園ではどのような点で母親の意識に違いがあるのだろうか。

以下その点を明らかにするために、預かり保育実施 3 園(S・I・Y 幼稚園)を A 幼稚園、預かり保育を実施していない園(H 幼稚園)を B 幼稚園に分けて分析を進めてゆく。

①対象者について

対象者の現在幼稚園に在籍している子どもの年齢は、A・B 園とも 4,5 歳児が多くそれぞれ A 園 4 歳児 43.0%,B 園 4 歳児 46.9%、A 園 5 歳児 43.0%,B 園 5 歳児 57.5%と、両園ともほぼ同じであった。

対象者の子どもの人数は、A・B 園とも 2 人が最も多くそれぞれ 60.1%,65.0%であった。

現在幼稚園に在籍している子どもの出生順位は、A・B 園ともに第 1 子が最も多くそれぞれ 56.3%,60.6%であった。

対象者の母親の年齢は、30～34 歳,35～39 歳が多く 30～34 歳は A 園 45.2%,B 園 33.1%、35～39 歳は A 園 30.7%,B 園 50.0%であった。

対象者の父親の年齢は、A 園では 30～34 歳,35～39 歳が多くそれぞれ 30.7%,36.7%、B 園では 35～39 歳,40～44 歳が多くそれぞれ 47.5%,30.0%であった。

家族構成は、A・B 園ともに核家族が最も多くそれぞれ 62.8%,77.5%であった。

②預かり保育について

預かり保育の制度を知っている母親は、A・B 園それぞれ 98.2%,86.3%と若干 B 園の方が少ないものの、B 園でも 80%以上の母親が知っており、幼稚園に在園する母親にも預かり保育制度が知れわたっていることがわかった。また、預かり保育の制度をどのように知ったかについて A 園では「園の情報から」がやはり多く 84.8%、B 園は「テレビ等の報道機関」(56.5%)や「行政の広報誌」を通して知っていることがわかった。

A 園の預かり保育利用については、利用したことがある人が 61.5%で、利用度をみると 10 回以下の利用が多く 64.4%、月極めでの利用も 8.2%みられた。

預かり保育を利用したことがない人の今後の預かり保育利用についての考えは、A・B 園ともに「利用してみたい」という回答が多くそれぞれ 69.6%,86.9%で、B 園からの希望が少し高めであった。

今後の預かり保育利用において「利用してみたいと思わない」と答えた人の理由としては、A・B 園とも「仕事をしていないので必要ない」(それぞれ 88.2%,57.9%)が多かった。さらに B 園では「子どもの面倒をみてる人がいる」が 42.1%に及んでいた。

B園は、預かり保育を実施していないのでこのような結果になったと思われる。

預かり保育を希望する理由は、A・B園ともに「緊急の用事の時」「他にどうしても預ける人がいない時」と同じ意見であった。

預かり保育の利用希望割合は、月2～3回、年2～3回がともに多いが、B園では月2～3回を希望する母親が50%近くいることから、B園では預かり保育を実施して欲しいと願っていることが推察される。

預かり保育の利用時間帯は、A・B園ともに早朝8時からと夕方4時・夕方5時・夕方6時までを希望する母親が多かったが、その中でB園の母親はA園に比し夕方4時・夕方5時までを希望し、夕方6時までの希望は少なかった。

③対象者の就労と子育てについて

子育てで困ったことや不安に思うことは、A・B園ともに「将来のいじめや犯罪に対しての不安」「教育費などの経済的負担」「子どもの友人関係」が多かった。

対象者の現在の状況は、A園は預かり保育を実施していることもあってか専業主婦(A園：68.2%、B園：90.0%)がB園より少ない反面、非常勤やパートの職についている人がB園より多かった。また、B園の専業主婦と答えた人の理由は、「育児に専念したいので仕事をしていない」が最も多く117名(81.3%)、「仕事をしたいと思っているが現在は育児以外の理由があって働いていない」が17名(11.8%)となっていた。

現在の状況で専業主婦と回答した人の考えは、A・B園ともに「子どもが小さい時は育児、大きくなったら就業」「子どもが淋しがると思うので」「家事・育児があるので就労は無理」が多かった。

就労経験は、「ある」と回答した人がA・B園とも95%近くで、うち「現在も継続して勤務している」と回答した人は、A園が76名(17.2%)、B園が4名(0.3%)であった。また、「退職した」と回答した人の理由としては、A・B園ともに「結婚」「出産」がほとんどであった。

仕事と子育てを両立させて就労・再就労する場合の時期は、A・B園ともに子どもが小学校入学時又は小学校4年生くらいになった時が目安のようであった。

A園の預かり保育後の子どもの様子については、「預かり保育の活動を楽しんできたようだ」「新しい友達が出来た」「成長や発達にプラスの影響がみられた」とプラスの評価が高かった。

④預かり保育制度についての考え

預かり保育制度についての考えはA・B園ともに「緊

急の場合に助かる」「保育の専門家に任せることが出来て安心である」「子ども同士のふれあいが出来る」とプラスの評価が高かった。

1日にどのくらい自分の時間があるかは、A・B園ともに「1～2時間以内」が最も多く、またA園においては「なし」という回答も12.2%みられた。

子どもを幼稚園に通わせてみて子どもにとって良かった点は、A・B園ともに「友達が出来て人間関係が広がった」「いろいろなことが体験できる」「喜んで登園している」という回答が多く、ほぼ同じ結果であった。また、母親自身が良かった点もA・B園ともに「子どもが喜んで登園している」「友達が出来て人間関係が広がった」「自分の時間が持てて気分転換が出来る」「子どもが集団生活を通して基本的な生活習慣を身につけた」とほぼ同じ結果であった。

⑤子育ての手助け

子どもを預ける場合、誰に預けることが多いかは、A園は母方祖母、B園は友人・知人が最も多くなっていた。

⑥幼稚園に期待する子育て支援策

幼稚園に期待する子育て支援策は、A・B園ともに「預かり保育・長時間保育などの充実」の回答が最も多かった。またA園の特徴としては、「未就園児の一時預かり」「学童保育の実施」を求める回答が多く、A園では就労をしている母親が多いことによるとと思われる。

一方B園では、「園庭開放」「子育てについての相談」を期待する回答が多かった。

【まとめ】

全体として本調査の結果からは、預かり保育が子どもに与える影響は悪いものではないと考えられる。また、子どもを預けて親が働いたり、緊急の用事などで使われている実態から、子育て支援としての役割を果たしていると思われる。

私立幼稚園を活用した預かり保育が本格的にスタートしてまだ丸3年。今後、幼稚園と家庭との連携を進め、家庭教育の充実、親への啓蒙とあいまった展開が望まれると思う。

【参考文献】

- ・平成11,12年度
横浜市預かり保育に関する研究
(文部科学省預かり保育調査研究最終報告書)

2001年度発行